

やさかじんしゃ

八坂神社

7世紀創建と伝わる全国の八坂神社の総本社。日本三大祭の一つの祇園祭(国の重要無形民俗文化財)で有名です。明治時代までは、祇園社・感神院と呼ばれていましたが、明治維新に伴う神仏分離により八坂神社と改められました。



西楼門(重要文化財)

ちおんいん 知恩院

山号は華頂山で、全国に約7000ある浄土宗寺院の総本山。宗祖法然上人の入寂の地に建てられました。江戸時代に徳川家の崇敬を受け、木造建築の二重門としては国内最大になる国宝「三門」をはじめ、数多くの加蓋が建立され、今日の形になりました。



三門(国宝)

祇園 清水

祇園の八坂神社や清水寺周辺など、観光客が絶えない京都観光のメッカとして知られる東山界隈は、歴史・文化の見所が溢れ、多くの寺社や古い町並みとその景観美を見せています。將軍塚や清水山への山道は京都一周トレイル東山コースにもなり、霊山を歩く自然豊かな散策路です。また、歴史的人物も、数多くこの地に足跡を刻み、さまざまないわれや伝承を知ることが出来ます。ここでは一般的な観光散策ルートと平安時代の征夷大將軍坂上田村麻呂を偲ぶ將軍塚コースを紹介します。



東山とねね

1561年木下藤吉郎(後の豊臣秀吉)に嫁ぎ正室となったねねは、宣教師リス・フロイスが「関白殿下の妻は異教徒であるが、大変な人格者で、彼女に頼めば解決できないことはない」といわれる程の人物であったようです。落飾後は高台院湖月尼と称しています。



1 ねねの道

ねねゆかりの高台寺と圓徳院があり、「ねねの道」と呼ばれます。戦国時代の世を、力強く華麗に生きた「ねね」を偲んでみましょう。



2 掌美術館

高台寺と、その関連寺院の収蔵品を公開展示している美術館です。高台寺時絵と呼ばれる漆に螺鈿や金粉を施した絢爛豪華な調度品(重要文化財を含む)を見ることが出来ます。



3 圓徳院

ねねが晩年を過ごした寺で、秀吉の念持仏・三面大黒天や歌聖・木下勝俊(ねねの甥)が祀られ、庭園・北庭(国指定名勝)は伏見城化粧御殿の前庭が移されています。



4 高台寺

秀吉没後、ねねが秀吉の冥福を祈るため、1605年に建立。霊屋(おたまや)(重要文化財)に秀吉とねねの木像が安置され、室内は「高台寺時絵(まきえ)」で装飾されています。

東山と幕末維新の歴史

明治維新の原動力になった尊皇攘夷運動は、天保年間(1830~1843)に急速に高まります。祇園・東山一帯は幕末~維新の激動期の舞台として、新しい日本の礎を築いた先人達の足跡が刻まれています。その歴史は下記で紹介したゆかりの地や施設で見ることが出来ます。



長楽寺

西行法師の「平家物語」ゆかりの寺ですが、尊皇攘夷運動に大きな影響を与えた『日本外史』の著者である頼山陽の墓があります。



月真院(御陵衛士屯所跡)

1616年に建立された高台寺の塔頭。幕末に、新選組から分離した伊東甲子太郎(かしたろう)ら、孝明天皇御陵衛士(高台寺党)の屯所となった所です。



翠紅館跡

現在は料亭となっていますが、ここは西本願寺の別邸・翠紅館跡で、幕末には、勤皇の志士達が合会を持ったところで、翠紅館会議の場として知られています。



京都霊山護国神社

幕末の維新志士奉祀のため1868年に全国初の官祭招魂社として創立。坂本龍馬や木戸孝允(たかよし)らの墓があります。



霊山歴史館

幕末~維新期に活躍した著名人の遺品や資料などが収蔵・展示されています。倒幕・佐幕両派の視点で幕末~明治維新史を見ることが出来ます。



成就院

「月の庭」(国指定名勝)とよばれる池泉観賞式の庭園があります。幕末期の住職月照(げっしょう)は尊皇攘夷に傾倒したため、幕府から追われる身となり、西郷隆盛と共に薩摩に逃れた後、錦江湾に入水しています。

清閑寺

月照と西郷隆盛が倒幕の密議をした茶室「野公亭」(かっこうてい)があった寺です。また、『平家物語』の悲恋で知られる小督局(ごうのつぼね)の宝篋院塔や、境内裏山には六條天皇と高倉天皇の御陵があります。

東山と坂上田村麻呂

軍事の統率力に優れていた坂上田村麻呂は、征夷大將軍として蝦夷地平定に功績を上げました。805年には清水寺の寺地を下賜され、寺の建立に着手しています。粟田に別邸を営み、そこで没したといわれ、山科の西野山に埋葬された可能性が高いとされています。

將軍塚

8世紀末、桓武天皇が平安京造営に際し、王城鎮護のため長さ18尺の土像に、甲冑や弓矢などを装備し埋めたといわれています。

清水寺(世界遺産)

鹿狩りに来た坂上田村麻呂がこの地で修行中の延鎮に殺生を戒められ、平安時代前期に千手観音像(重要文化財)を造り一堂を建てたのが創建の始まりとされています。

阿弓流為・母禮之碑

二人は蝦夷(えみい)の首長でしたが、田村麻呂率いる朝廷軍に降伏します。田村麻呂らは朝廷に助命嘆願をしましたが、河内国で処刑されたといわれます。田村麻呂ゆかりの清水寺には平安遷都1200年を記念して、1994年に顕彰碑が建てられました。

まるやまこうえん 円山公園(国指定名勝)

1912年に七代目小川治兵衛(補治)により作庭された、琵琶湖疏水の水を引く池泉回遊式庭園を中心とした市の公園です。面積は約9万平方メートルあります。枝垂桜が有名で、春には多くの観光客で賑わいます。

祇園枝垂桜

こんごうじ やさかこうしんどう 金剛寺(八坂庚申堂)

天台宗の寺で、本尊は青面(しょうめん)金剛です。八坂庚申堂とも呼ばれ、日本三庚申の一つです。正月の初庚申のコンニャク封じ祈禱や不見・不聞・不言の三猿像でも有名です。

京都市文化財建造物保存技術研修センター 伝統的な補修(むらびき)をはじめ、文化財建造物を維持する技術者を養成する施設です。

<< マップ目印解説 >>

● おすすめルート(清水コース) ● おすすめルート(將軍塚コース) ● 伝統的建造物群保存地区 ● 目印 ● バス停 ● 公営駐車場 ● トイレ ● 警察 ● 信号機

祇園 清水



発行 京都市・(財)京都市埋蔵文化財研究所

祇園 清水周辺の発掘調査

祇園 清水は京都市東山区に位置し、鴨川の東岸から東山西麓にかけ、北は三条通から南は五条通に至る地域です。東から西へ下る傾斜地に市街地や寺院街が広がっています。祇園はこの地区の北側にあたり、八坂神社や知恩院があります。祇園 清水地区の遺跡には東山の西麓に八坂方墳や將軍塚古墳群などの古墳が点在しており、渡来系氏族・八坂氏との関係が窺われています。飛鳥時代は八坂郷の地でもあったこの地区には、八坂の塔と称される法観寺が建立されます。史跡法観寺境内の近年の発掘調査では、飛鳥時代の瓦とともに磚仏（せんぶつ）が発見されています。また平安時代末期に創建された知恩院境内の名勝知恩院方丈庭園で発掘調査が行われています。近世初頭に建立された高台寺境内の史跡高台寺庭園での発掘調査が行われ、前身となる雲居寺（うんごじ）にかかわる遺物が発見されました。清水地区の清水寺は、地区中央にあり、その南には鳥部（辺）野（とりべの）と称された、平安時代からの葬送の地が広がっています。清水寺境内の本堂で近年発掘調査が行われ、木製の巡礼札が発見され話題になりました。

1 史跡法観寺境内

法観寺は八坂寺とも称され、飛鳥時代に八坂郷を拠点としていた渡来系氏族の八坂氏が創建したとされています。現存する五重塔は、室町時代に再建されましたが、地下式の心礎は当時のまま残っており、重要文化財指定建造物となっています。2009年の発掘調査では、創建時の瓦とともに金箔が貼られた土製の小さな磚仏が見つかりました。



五重塔南での発掘調査の様子



金箔が貼られた飛鳥時代の磚仏

2 清水寺境内

清水寺は坂上田村麻呂が延暦二十四年（805）に寺地を賜り、大同二年（807）に仏堂を建立したことが起こりとされています。現在の本堂は、江戸時代前期の火災の後、徳川幕府三代將軍家光により再建されたものです。2011年の発掘調査では本堂の下に焼土層が3層見つかると、少なくとも3回の火災があったことがわかりました。見つかった陶磁器片などから、それぞれ江戸時代前期、室町時代中期の応仁文明の乱、室町時代前期の火災であるとみられます。また、江戸時代に積まれた石垣の間から「享保十四年（1729）」銘の木製の西国三十三所巡礼札が見つかり、江戸時代に清水寺へ巡礼した人々の思いを窺わせる貴重な資料となりました。



本堂下の発掘調査風景



本堂下の礎石と火災を示す焼け土



巡礼札 裏（左）には「願主浄信」の名前が、表（右）には「為 おはな 妙春信女」と書かれています。

（写真提供 (公財)京都市埋蔵文化財調査研究センター）

3 名勝知恩院方丈庭園

浄土宗総本山の知恩院は浄土宗開祖の法然上人が13世紀に坊舎を構えたのが始まりとされます。江戸時代に徳川家の庇護のもと、伽藍が整備されましたが、寛永十年（1633）に焼失しました。現在の伽藍は焼失後に再建されたものです。2005年に市指定名勝知恩院方丈庭園で、整備工事に伴う確認調査が行われました。焼失以前の池の護岸石や洲浜の様子、現在よりも水深が浅かったことなどが明らかになりました。また、洲浜からは江戸時代の土器等とともに、木製の荷札木簡も見つかりました。



園池の護岸に組まれた石組



園地の洲浜跡の様子



石で組まれた滝石組の様子

4 高台寺境内(雲居寺跡)

豊臣秀吉の菩提を弔うために北政所（ねね）により慶長十年（1605）に造営されました。江戸時代後半から明治時代に発生した3回の火災により建物が焼失しましたが、大正年間に再建されています。2005年に史跡高台寺庭園で発掘調査が行われ、創建当初の整地土と礎石や雨落溝等が発見されました。また、境内は承和四年（837）に桓武天皇の菩提を弔うために菅野真道が造営し、鎌倉時代まで存続した雲居寺（うんごじ）の推定地でもあります。調査では鎌倉時代・室町時代の土器も見つかり、高台寺創建以前の遺跡の手がかりとなりました。



発掘調査の様子



小方丈の雨落の溝跡

5 八坂方墳(高台寺境内)

高台寺の境内にある古墳です。墳丘が一辺約20m、高さ約3mの方墳で、墳丘は二段築成で地輪列もあります。本格的な調査は行われていませんが、八坂氏の首長墓の一つとみられています。



高台寺境内に残存する古墳跡

6 將軍塚古墳群

華頂山（標高215m）の山頂付近で3基の古墳が確認されています。1号墳は山頂にあります。2号墳は大日堂内にありましたが壊されています。3号墳は將軍塚と呼ばれ、墳丘は径約40mの大型の円墳です。発掘調査は行われていませんが、内部の埋葬施設は横穴式石室です。



將軍塚と呼ばれる古墳跡

7 六波羅蜜寺境内跡

六波羅蜜寺は、応和三年（963）、空也上人が鴨川の東に御堂を建立し、西光寺と呼んだのが始まりとする説があります。平家都落ちの寿永二年（1183）兵火を受け本堂以外は焼失し、その後は源頼朝や足利家による再興、豊田家や徳川幕府などの援助を経て再建され、さらに明治の区画整理や六原小学校の建設により、寺域が減少して今日の姿になりました。境内の発掘調査はこれまでに1975年と1981年に行われ、平安時代中期から中世の遺構や遺物が見つっています。また、出土した遺物の中には弥生時代の土器や古墳時代の埴輪等もみられました。2011年の旧六原小学校内の発掘調査では室町時代の六波羅蜜寺の北を限る築地と溝、そこに開く門や西を限る堀などが発見され、中世の境内の様子が明らかになりました。



礎石を据えた門跡（左・右に各3石）



西を限る堀跡と建物跡



堀跡（巨石で塞いでいる）



出土した弥生時代～古墳時代の土器



出土した平安時代の土器



祇園 清水に関する発掘調査地の位置図

資料提供：財団法人京都市埋蔵文化財研究所



京都市考古資料館

大正3年に本野精吾の設計で建てられた旧西陣織物館を内部改修し、京都市内の発掘調査・研究の業績を発表・展示するため昭和54年11月に設立されました。特別展と常設展で構成され、約1000点の遺物が展示されています。遺物展示のほかにも、映像やパソコンで旧石器時代から近世にかけての京都の歴史を学ぶことができます。建物は、昭和59年に京都市有形文化財に登録されています。

〒602-8435
京都市上京区今出川通大宮東元伊佐町 265-1
TEL. 075-432-3245 FAX. 075-431-3307
http://www.kyoto-arc.or.jp/museum/
入館無料・月曜休館（月曜が祝日の場合は翌日）
開館時間 9:00～17:00（入館は16:30まで）
JR京都駅より地下鉄丸の内線 今出川駅下車徒歩15分
市バス201・203・59系統 今出川大宮下車すぐ

